

2014年11月実績概要（メモ）

（2014. 12. 18）

1. 生産動向

イ) エチレン 588,400トン

前月比 +6.4% (+35,200トン)
前年同月比 ▲1.7% (▲10,400トン)

生産増減に係る諸要因	＜前月比＞	＜前年同月比＞
日数増減	▲ 3.2%	—
定修要因等	+ 7.0%	▲ 2.4%
能力増減	—	▲ 4.8%
稼働率変動	+ 2.6%	+ 5.5%
生産増減率	+ 6.4%	▲ 1.7%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月92.4%→当月94.6%←前年同月89.7%

定修プラント：前月2社2プラント→当月なし ←前年同月なし

2014年1～11月累計生産量 6,018.1千ト 前年同期比▲0.9%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減があったが、定修規模差等からLD、PP、SM、塩ビモノマー、MMAモノマー、SBR、BR、トルエンなどの12品目がプラス。HD、PS、EO、EGなどの5品目はマイナスとなった。

前年比では、主に稼働率要因からLD、HD、PP、PS、AN、SBR、BR、ベンゼン、キシレンなどの13品目がマイナス。塩ビモノマー、トルエンなどの4品目のみがプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数は減少したが、LD、PPでは秋の定修もほぼ終了したことからプラスとなった。HD、PSは稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因等からLD、HD、PP、PSの4樹脂揃ってマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、営業日数減や原料を巡る環境が大きく変わっており、ユーザー側でも調達を急ぐ気配が見られずLD、HD、PSでマイナス、PPは前年並みとなった。

前年比では、原料を巡る環境変化と輸入品の増加影響もあり、ポリオレフィンでは特にフィルム分野、PSでは包装分野での出荷が減少し4樹脂ともマイナスとなった。

ハ) 輸出

アジア域内の需要に関しても様子見の状態が続いており、前月比でLD、HD、PSでマイナス。PPのみがプラスとなった。

前年比では、LD、PP、PSはマイナス、HDはプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PPで増加し、PSは若干減少した。在庫率(季節調整済)ではLD、HD、PSで上昇、PPは前月並みとなった。在庫水準としては、LD、HD、PPはやや高め、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		10月末	11月末
LD	+ 9,500	3.3	3.5
HD	+ 2,200	2.6	2.7
PP	+ 6,600	2.8	2.8
PS	▲ 500	1.1	1.3

以上